



つながろう

CO・OP アクション情報

2012年1月11日

第10号

◆イベントがあると、ほっとします



いわて生協
組合員 佐藤 サチ子さん

仮設住宅は狭いので、どうしても自宅で過ごすにはいきません。このような音楽などのイベントがあると、ほっとしますね。本当に楽しかったです。

今日は12月18日で、発災から早くも9カ月が過ぎています。今でも仕事や生活で困ったこと、不安なことはたくさんあります。

たとえば仮設住宅にはお仏壇を置けません。おうちでご供養ができないのは寂しいですね。

それから、仕事がないので若い人たちは都会に出て行ってしまい、過疎化が一層進むのも心配です。

不安の多い中、生協の役割は大きいと思います。これからも、生協がイベントや毎日の生活に密着した活動を続けてくださり、地域を明るくしていただけると、うれしいですね。

みんな笑顔で民謡を楽しもう！

～いわて生協・歳末コンサート～



全国の民謡を演奏する、「みらいみんよう」の皆さん。

12月17日と18日、いわて生協は「みらいみんよう」のプロジェクト※1メンバーによる歳末コンサートを開催しました。17日の綾姫ホール（大船渡市）、18日のグリーンピア三陸みやこ（宮古市）とも仮設住宅居住者を中心にたくさんの方が来場しました。今回は唄、三味線、日舞、尺八、鳴り物などで、地元・岩手の外山節をはじめ、ソーラン節や大漁うたいこみななど全国の民謡が演奏され、200人を超える来場者は、手拍子を打ちながら聞き入っていました。終演後は、会場の外で甘酒とおしるこの振る舞いもありました。

グリーンピア三陸みやこで、開場1時間前から友達と並んでいたという女性は、「仮設住宅は狭いし、おしるこを作る気も起こらない。おいしくて、ほっとしました。来てよかったです」と笑顔を見せていました。いわて生協の組合員理事・香木みき子さんは、「皆さんが笑顔で帰ってくれて、うれしかったです。地域を元気にするために何ができるかを考えて活動しています。『かけあしの会』※2で、被災された方の仕事づくりのために新製品の開発もしているんですよ」と話していました。

※1 民謡を未来の世代へ伝承するためのプロジェクト。三味線の松田隆行さんなどが参加。

※2 香木さんが所属する、復興プロジェクト。



年末の炊き出し風景。

年末年始に炊き出しも実施

「いつもならにぎやかなはずの年末年始に、ひとりぼっちで寂しい思いをされている方も多くいます」といわて生協・前副理事長の佐々木みどりさん。いわて生協では、年末年始（12/29・30、1/7・8）に仮設住宅18カ所で、炊き出し活動を行ない、多くの方が、温かいカニ鍋やきなこ餅に舌鼓を打っていました。